

かみすごろ

上須頃地区

(新潟県三条市)

- 計画期間 平成30年度～令和2年度
- 面積 18.8ha
- 交付対象事業費 5,831.4百万円
- 市人口 94,146人

ポイント

県央基幹病院の開院を見据えた“上須頃”の広域交流拠点としての再構築

目標

- ①若年層を中心とした人口動態の改善
- ②広域的・基幹的な都市機能の集約を担う拠点としての都市空間の形成

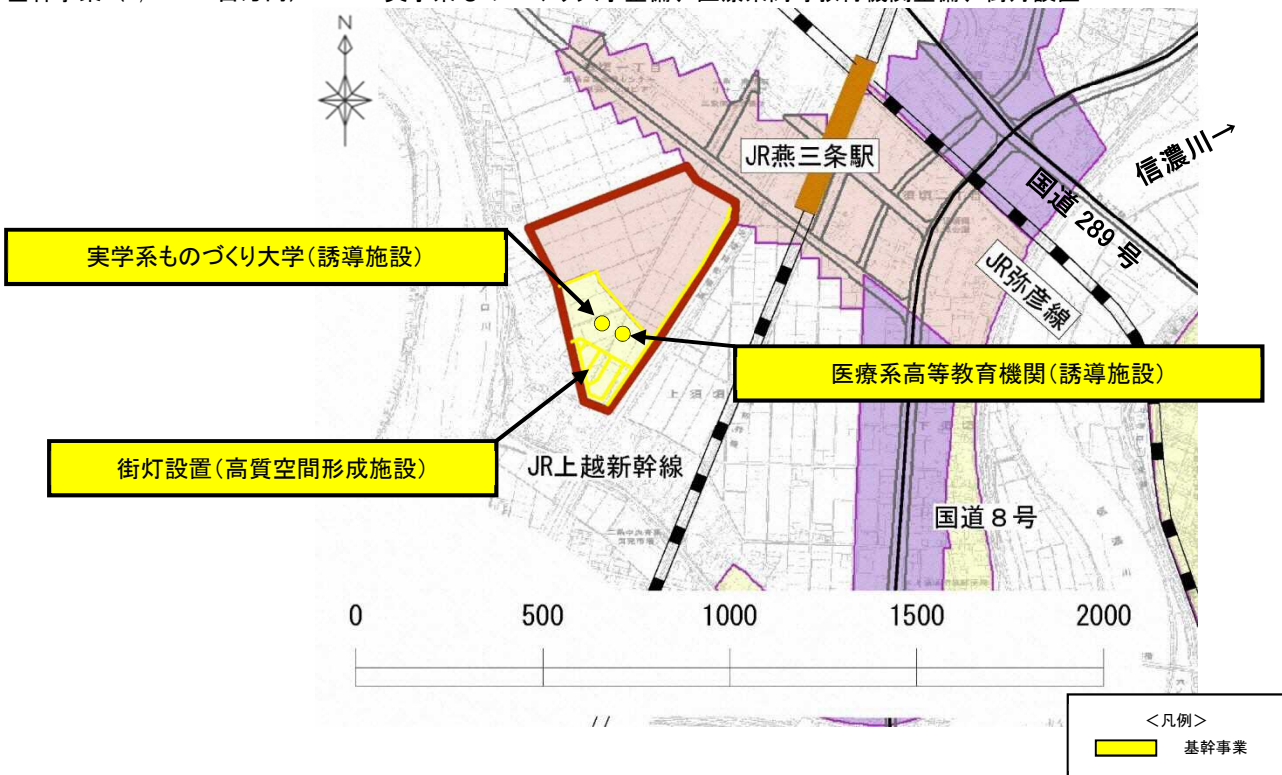
指標

若年層の転出抑制（教育環境の充実）が図られたか、また、高次都市の機能保全に向けて各種事業を展開することで、減少傾向にある乗車数に歯止めをかけることができたかを指標とした。

就学を理由として市内から流出する若者の人数	860人 (H30)	→	790人 (R2)
JR 燕三条駅の1日平均の乗車人員	2,210人 (H30)	→	2,320人 (R2)

事業内容

基幹事業（5,831.4百万円） → 実学系ものづくり大学整備、医療系高等教育機関整備、街灯設置



地区の現況と課題

現況

上越新幹線燕三条駅や北陸自動車道三条燕インターチェンジのほか、国道8号、国道289号などの南北・東西方向の軸が配置された、広域的な交通の拠点として位置づけられており、産業支援施設や商業・業務施設などの集積が進んでいる。また、本地区は、平成27年11月に県中央基幹病院の建設地に決定した地域であり、また土地所有者を中心とした土地区画整理事業の予定地でもある。

課題

① 若年層を中心とした人口動態の改善

当市の人口動態を見ると高校卒業時に多くの学生が進学で都市部に流出し、更にそのまま都市部で就職するため、若年層の転出が著しい。この流れを転換するためには、若年層が高校を卒業しても三条市に留まり続けるため、学生や保護者をひきつける魅力ある高等教育環境の充実が必要である。

② 商業や文化、情報、交流、産業支援などの高次都市機能の集積

より多くの「人・もの・情報」などが集まり・広域交流拠点の形成に向けて、民間資本の導入を含めた広域商業や文化、情報、交流、産業支援等の高次都市機能の集積を促進する必要がある。

計画策定プロセス

三条市総合計画

「豊かな自然に恵まれた 歴史と文化の息づく 創意にみちたものづくりのまち」を将来都市像に掲げ、平成27年度から令和4年度までの8年間の計画として三条市総合計画を策定した。

その中において、若年層の転出抑制を図るため、地域が求める人材の育成等に貢献する特色ある高等教育機関の設置又は誘致に取り組み、若者の市内での進学を促進することとしている。

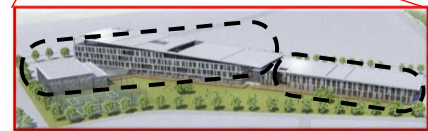
三条市実学系ものづくり大学開設検討委員会

実学系ものづくり大学の開設に向けた検討を行うため、三条市実学系ものづくり大学開設検討委員会を設置し、平成28年8月の第1回目から計6回の検討委員会を開催して育成する人材像や教育課程の編成方針などの検討を行ってきた。

三条市医療系高等教育機関の開設に係る懇談会

医療系高等教育機関の開設に向けた施設整備等に関する検討を行うため、三条市医療系高等教育機関の開設に係る懇談会を設置し、平成28年1月の第1回目から計6回の懇談会を開催して医療系高等教育機関の施設の整備や運営する事業者による運営への要望などの検討を行ってきた。

事業敷地及び施設面積



医療系高等教育機関
延床面積：3,993 m²



整備後の外観



三条市実学系ものづくり大学検討委員会



三条市医療系高等教育機関の開設に係る懇談会